

<今日の説教のポイント ヘブライ人への手紙1章1-4節>

1 (1-2a) 神様が御子によって語られた。その意味は？

この書の出だしが重要です。「**神は、かつて預言者たちによって、多くのかたちで、また多くのしかたで先祖に語られたが、この終わりの時代には、御子によってわたしたちに語られました**」(1-2a)。「この終わりの時代」は、「御子によって語られた」とありますので、イエス・キリストが到来して以降の時代です。聖書を通して御子を知り、神様の御旨を聞くことができる私たちもその中にあります。重要なことは、色んな「かたち」や「しかた」で語られた時と「御子によって」語られるようになった時の違いです。それは聞くべきものが一つになった点であり、ただ御子によってのみ知ることができる神様の内容に注目する必要があるということです（自然啓示と特殊啓示の違い）。それは何か？一言でいうなら、御子によって、神様の私たちに対する深い愛を知ることができるということです。

2 (2b-3a) ヨハネ福音書1:1-3 とそっくりな内容。その意味は？

「**神は、この御子を万物の相続者と定め、また、御子によって世界を創造されました**」(2b)。ここから先の内容は、私たちが知っていることから理解しようとするのではなく、むしろここに記されていることから聞かなければなりません。なぜなら、神様のなさることは私たちの思いを超えているからです（先週のヨハネ福音書 1:1-3 そっくり）。すると、何が聞き取れるか？ 御子は神その方ではないか、ということです。すると、確かにこの後、「**御子は、神の栄光の反映であり、神の本質の完全な現れであって**」(3a)、と続いているのです（ヨハネ福音書 1:14, 18）。

3 (3b) ヘブライ書が示すさらなる御子の意味。大祭司キリスト。

「**(御子は)万物を御自分の力ある言葉によって支えておられますが、人々の罪を清められた後、天の高い所におられる大なる方の右の座にお着きになりました**」(3b)。2b が神の過去と将来とするなら、この内容は現在と言っていいでしょう。ここでは、御子の死による私たちの罪の赦しと、その後も続く働きが示されています（ヘブライ 4:14-16, 7:26-28）。私たちの思いを超えた深い神様の赦しの愛をここからも知らされるのです。